

カガヤキ

暫定的補足表題「ウオランタス」
ラテン語でボランティアの意

No.74(2024.4.15 刊行)、広報委員会編集
茨城県立図書館発行
禁複写転載©広報委員会

令和5年度各グループ年次報告

各ボランティア名のあいうえお順。
文章は「です・ます調」に統一。

外国語資料整理 G

和田朝美

1) 今年度目標

外国語書籍・印刷物の書誌事項及び内容の概要を和訳し、所定の書式に記入（手書き、またはPC入力）、資料の収蔵如何の検討及び図書データベースを作成します。

その他、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語の他の言語を含め、外国語ボランティアの参加を期待し、一般の方々の他の学生も歓迎します。

2) 活動内容

3) 成果

一般書は、英語、ドイツ語、その他の言語に対し、合計 155 件。

児童書はなし。

普及課のボランティア募集努力により、主として英語を中心に2名の新規および復帰参加があり、特に、英語資料整理の成果が大きい反面、ドイツ語の成果が不足しています。

整理後、収納された外国語資料が、一般の利用者の目に触れていません（閉架収蔵）。

4) 来年度目標

英語資料の整理をさらに続けること。

ドイツ語を中心として、英語以外の資料整理作業を促進すること。

その他、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語の他の言語も含め、一般の方々と学生の外国語資料分野のボランティア参加に、引き続き期待します。

郷土資料整理 G

矢口孝之

1) 今年度目標

二ヵ月に一度の割合で定例の打合せ会を実施し、古文書の解読作業を進めます。

2) 活動内容

県立図書館所蔵の古文書を選択し、解読します。解読は、各自ページ数を分担し、自宅で解読作業を実施します。それを定例の打合せ会の際に持ち寄り、全員で読み合わせを行います。こうして、解読の終わった物については、冊子化を行い、県立図書館と国会図書館へ納付します。また、データベース化して、県立図書館 HP に公開

しています。

今年度は、2名の入会があり、8名で古文書の解読作業を行いました。

3) 成果

- ・『地理書 常陸久慈郡』の校正が終了し、冊子化を進めています。
- ・『水戸逗留日記』の読み合わせは終了しました。
- ・今年度新たに『桜田一件』の解読作業に着手しました。

4) 来年度目標

『水戸逗留日記』の校正と冊子化を行う予定です。また、『桜田一件』の読み合わせも進めます。

広報 G

桜井 淳

1) 今年度目標

広報 G の作業内容は、国内外どこでも、PC と Wi-Fi さえあれば、E-mail や WORD などの利用により、原稿依頼や編集作業ができるため、活動制限が少なく、通常どおりの作業が継続できるため、通信紙の編集は、最低 2 回、できれば 4 回にしたい。

2) 活動内容

的確な取材や分析やまとめが可能なように、これまでどおり、県立図書館の広報 G 担当の職員とは、E-mail のやり取りを実施しました。

3) 成果

今年度に発行した通信紙は、No.70, 71, 72, 73 および No.74 の編集です。高い目標以上の成果を上げることができました。

4) 来年度目標

今年度同様の成果を上げるため、同様の手法と目標を掲げ、できるだけ多くの通信紙の編集に努めたい。

三の丸書庫 G

黒澤英宣

1) 今年度目標

団体貸出の返却本の配架保管作業、図書修理作業、リサイクル本の処理作業に努めます。

2) 活動内容

3) 成果

年度を通して活動しています。

月 2 回または 3 回のペースで活動しています(AM9:30-12:00)。

登録者 10 名のうち、毎回、5-7 名程度が各自の都合に合わせて参加しています。

4) 来年度目標

活動は、協力体制がしっかりしており、作業効率が非常に良く、これは、ボランティアとしての意識と意欲が高いためと思われます。今後も継続できるようにしたい。

児童サービス G

茂垣康子

1) 今年度目標

5 月の新型コロナウイルス 5 類移行後は、感染症対策に配慮しつつ、以前のような活発な活動に戻り、おはなし会イベント

や読書フェスでのクラフト企画なども積極的にを行います。

2) 活動内容

3) 成果

9 班による定例おはなし会、有志による英語絵本のおはなし会、定例おはなし会での外国語絵本活用、読書フェスでのスペシャルおはなし会(英語班含む)。

6 月のおはなし会イベント「大人のための絵本読み聞かせの会」の来場者は、子供 7 名、大人 13 名。

10 月のおはなし会イベント「ハロウィン仮装おはなし会」午前・午後の部の合計の来場者は、子供 25 名、大人 18 名(概ね好評で)。

11 月の読書フェスでのかんたんワークショップ「ミニフラッグをつくって、おはなし会であそぼう！」の来場者は、子供 51 名(未就学児にも簡単に短時間で制作可能なクラフト企画で、スペシャルおはなし会への集客も兼ねて一定の効果がありました。役員班がスペシャルおはなし会とワークショップの運営を両立させるのは、負担が大きく、児童サービスによるクラフト企画のレギュラー化は、難しいと思います)。

グループ内での活動

前年度 3 月、9 月、3 月に班長会議。

7 月に第 1 回研修会「児童サービス発表会」、各班による活動やおすすめ絵本の紹介など。

12 月に第 2 回研修会「絵本作家・イラストレーター Satoco 先生講演会」(日立市在住の絵本作家の Satoco 先生の講演、作家本人による読み聞かせなど)。

研修会により、絵本の知識や今後の活動

に対するモチベーションの向上が得られたと思います。

4) 来年度目標

グループとしての目標は、来年度の役員班に任せますが、私個人としては、今後もおはなし会をとおして子供たちに本の楽しさを伝え、読書欲と想像力を育む一助になれるよう努めたい。

資料配架 G

吉田善克

1) 今年度目標

コロナ収束後の活動を再開します。

2) 活動内容

随時、返却資料の配架を実施しました。

3) 成果

延べ活動日数は、103 日、延べ活動人員数は、147 名。

4) 来年度目標

新規登録者もあり、総数約 20 名を数え、恒常的な活動人員も 5-6 名、この状態を維持できるように努めたい。

対面朗読サービス G

高村由美子

1) 今年度目標

利用者からの要請に応じてリーディングサービスを提供します。

リーディングサービスの向上を図るため

に適宜研修を行います。

2) 活動内容

現在の活動メンバーは、9名、定期的利用者は、1名。

利用者からの要請に応じて 要望のあった本や雑誌や参考書などを対面しながらリーディングサービスを行ってきました。

利用者は1名。

要請回数は、月2回程度、1回の要請では、2時間のサービスを2名で対応しています。

研修会（定例会も含む）を原則、月1回、第3土曜日(8月を除く)。

朗読サービス向上のために、毎回、音読向上のための研修と、時に応じて、日本語に関する身近な課題を取り上げてきました。

3) 要望

メンバー的に余裕があります。対面朗読を県立図書館で行っていることを知っているだけの機会をとおして、必要とされる方がいらっしゃるなら是非ご利用していただきたい。

4) 来年度目標

基本的に活動内容は同じです。よって、前年度を踏襲します。

利用者からの要請に応じてリーディングサービスを提供します。

リーディングサービスの向上を図るために適宜研修を行います。

1) 今年度目標

修理本それぞれに最適な修理方法で、できるだけ元に近い状態まで直すようにします。

2) 活動内容

毎週金曜日の10:00-15:00、図書館ボランティア室で、様々な道具を使用し、修理活動を行います。

年2回の読書フェスティバルに協力します。

3) 成果

修理した本の冊数は約300冊です。中でも今年度の要修理本は、古い図書が多く、1冊の修理に1ヵ月以上の日数をかけなければならない本が多くありました。本の壊れ方は、それぞれで、本毎に、皆で意見を出し合い、修理を進めました。また、児童本の中の仕掛け絵本の修理が多くなってきましたが、これも積極的に修理しています。

読書フェスティバルの「マイスターになろう」に協力しています。参加者が持参した本を自分で直す手伝いや、時間内で終了できなかった本は、預かって修理を行いました。5月のフェスティバルは、盛況でしたが、11月は、参加者が少なく、開催時間と場所の再考が必要との反省がありました。

図書館職員に様々な修理方法を説明しました。

4) その他

修理に回ってくる本の中に、セロハンテープで応急処置しているものがあります。セロハンテープは、変質しやすく、その後の修理は、大変な労力・技術を必要とし、変色した箇所は、修理不可能になり

図書修理 G

近藤淑子

ます。利用者の方には、外れているページを見つけたら、そのままの状態で見つければ、ありがたいと思います。

録音図書制作 G

立川みつよ

1) 今年度目標

利用者が聞きやすく、内容の理解できる録音図書を製作します。

メンバー全員がすべての作業を担当できるようにします。

2) 活動内容

・ DAISY 図書の製作

製作の流れ

本の選定→著作権確認→編集等の製作打ち合わせ→下読み、下調べ→表紙カバー、文中イラスト、表などの文章化→録音→①音訳と編集の校正→②校正後の訂正→①と②の2-4回くり返し→DAISY 図書としての全体編集と校正→CD 作製→図書館へ CD 提出と国立国会図書館への登録依頼。

・ 定例会

音訳、編集の勉強会 製作中図書の校正他打ち合わせ。

県立図書館（毎月第2火曜日）

牛久中央図書館（毎月第1、第3火曜日）

・録音などの場所は図書館録音室または自宅で行っています。

3) 成果

完成図書

「数えきれない星の、その次の星」重松

清著、ちくま文学の森7「恐ろしい話」安野光雅・池内紀他編。

6月20日（火）水戸・県南地区メンバー合同朗読勉強会 場所は牛久中央図書館。

7月3日（月）全国音訳ボランティアネットワーク総会は、ZOOMで、2名参加。

8月5日（土）日本図書館協会主催「著作権セミナー」は、ZOOMで、3名参加。

2024年1月27日（土）名作を楽しむ会音訳協力は2名。

4) 来年度目標

利用者が、聞きやすく、内容の理解できる録音図書の製作を実施すること。

メンバーが減少傾向で図書の作製数は、抄らないものの 完成度は、維持したい。

編集後記

私は、通信紙 No.25 から担当し、今回、No.74 の編集を完了しました。

当初、これほど長く携わるとは夢にも思っておらず、当時(2015年4月)、開店休業状態の広報グループを2-3年かけて立て直し、通信紙の再発行を遂げたならば、退く予定でした。

しかし、通信紙のレベルを上げるため、さまざまな試みを行い(外部識者への原稿依頼、資料分析、研究論文としての「文章論」「ボランティア論」「宗教哲学」など)、今日に至り、新たな試みのひとつとして、各ボランティアグループの年間作業内容と成果をまとめた「年次報告」の発行です。

以下は「年次報告」の掲載号のまとめですが、立ち上げ期に、私と館長の考え方に越え難い差異が生じたため、2016年と2017年の「年次報告」は、残念なことに、見送らざるをえませんでした。

- ・ No.25(2015.4)
- ・ No.39(2018.4)
- ・ No.43(2019.4)
- ・ No.49(2020.4)
- ・ No.56(2021.5)
- ・ No.62(2022.4)
- ・ No.70(2023.4)
- ・ No.74(2024.4)

通信紙編集上の最近の数年間の特徴として挙げておかなければならないことは、普及課で広報ボランティア担当者の協力をえて、原稿執筆などもお願いし、特に、過去一年間、普及課長の鈴木忠雄さんには、原

稿執筆どころか、館内職員への原稿依頼までしていただき、それまでにない内容と表現と写真の記事を掲載(No.71、72、73、特に、No.71の鈴木さんの溪流釣りの記事と写真が素晴らしい)することができ、新たな一ページを開くことができたという実感できました。

鈴木さんは、元小学校教諭であり、健康的で、明るく、積極的で、建設的な思考(いわゆるプラス思考)の持ち主であり、やり取りの中で、学ぶべきことが多くあり、大変良い、幸運な巡り逢わせであったと神(特定の神ではなく、「比較宗教学」と「宗教社会学」の研究を中心とする宗教学研究者として、なおかつ、曹洞宗雲水として、心に描く私の神)に感謝。

桜井 淳